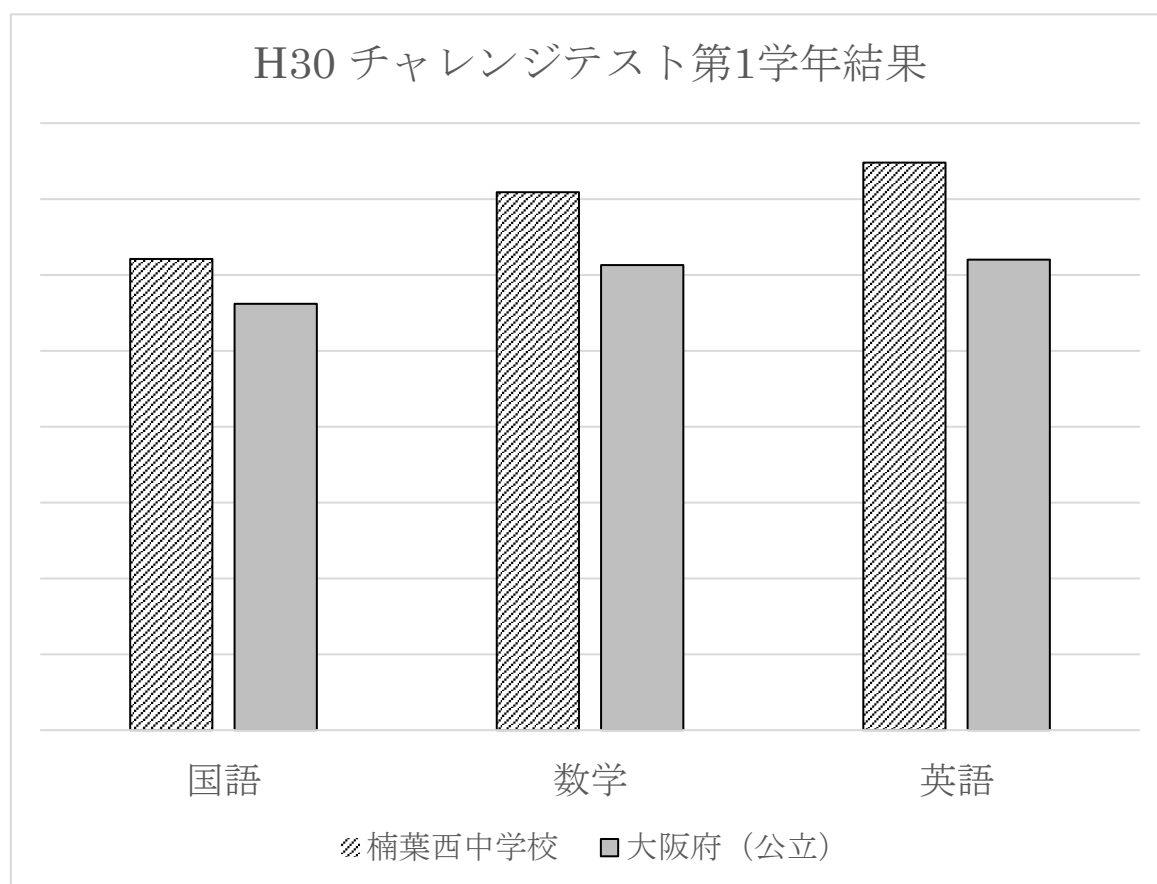


枚方市立楠葉西中学校

H30年度 チャレンジテスト分析結果



1年生 (国語科)

【分析】

ほとんどの設問において大阪府平均を上回った。特に、記述式の問題は例年と比べても良い結果であった。府平均を下回った設問は「言語についての知識・理解・技能」に関する問題であった。

【成果】

例年課題であった「記述式」の問題で良い結果が出たのは、普段の授業で自分の意見や考えを書く時間を確保してきたからであろう。また、教師からの助言だけでなく、4人班活動を取り入れることで生徒同士が助言しあうようになり、自分のことばで文章を書けるようになってきたと考えられる。

【課題】

「言語についての知識・理解・技能」の観点に課題が見られた。漢字の読み書き、辞書の使い方など基礎的な知識が不足している。

「記述式」の問題は大きく府平均を上回っているが、「読むこと」の観点を見ると、府平均と大きく差が開いているわけではない。このことから自由記述は得意であるが、文脈に即して読む力には課題があると考えられる。

【対策】

引き続き、自分の意見や考えを書く時間を確保するが、読解力を高めるために個人が文章を読む時間をとり、適切な文章の読み方を指導していきたい。

「言語についての知識・理解・技能」については、授業内で辞書を活用する機会を増やし、使い方を確認しながら語彙力を増やしていく。

分

1 年生 （数学科）

【分析】

すべての設問において、大阪府の正答率を上回っているが、「変域」を正しく理解している生徒が少なかった。また、無解答率もすべての設問において、大阪府を下回っており、日頃の学習に取り組む前向きな姿勢が反映された結果であると考えられる。

【成果】

「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」という3観点のうち、「数学的な見方や考え方」が大阪府を最も上回っているのは、日頃の学習が単なる知識の詰め込みではなく、数学の本質に迫れているからであると考えられる。また、「選択式」「短答式」「記述式」の問題のうち、「記述式」の平均点が大阪府を最も上回っているのも、深い学びを意識した日々の指導の成果であると考えられる。

【課題】

「数と式」「図形」「関数」という3つの領域のうち、「数と式」に最も課題がある。これは、日々の授業のなかでも「計算力」に不安を覚えることが多いこととも重なる。また、得点分布の形状は、大阪府の正規分布に対して、本校はいびつである。

【対策】

「計算力」が弱いのは、十分な練習量を積んでいないからであると考えられる。教科書とは別に問題集に取り組ませているが、プリントでさらに補充をする。また、宿題を毎時間提示することで、家庭学習を充実させることも必要である。いびつな得点分布の形状については、個人による取り組みだけでは限界があるので、集団による「教え合い」や「学び合い」を利用して、学力の底上げを図る。

1 年生 （英語科）

【分析】

ほとんどの設問において、大阪府の正答率を上回っているが、会話文を読み、空欄に当てはまる前置詞を選ぶ問題のみ、府平均をわずかに下回っていた。その点は改善の必要があるが、そのほかの問題に関しては、府平均を顕著に上回っていた。これは日ごろから与えられた課題に関して、ペアやグループで話し合ったりすることで解決策を見出すように学習してきた生徒達の努力が現れた結果と考えられる。

【成果】

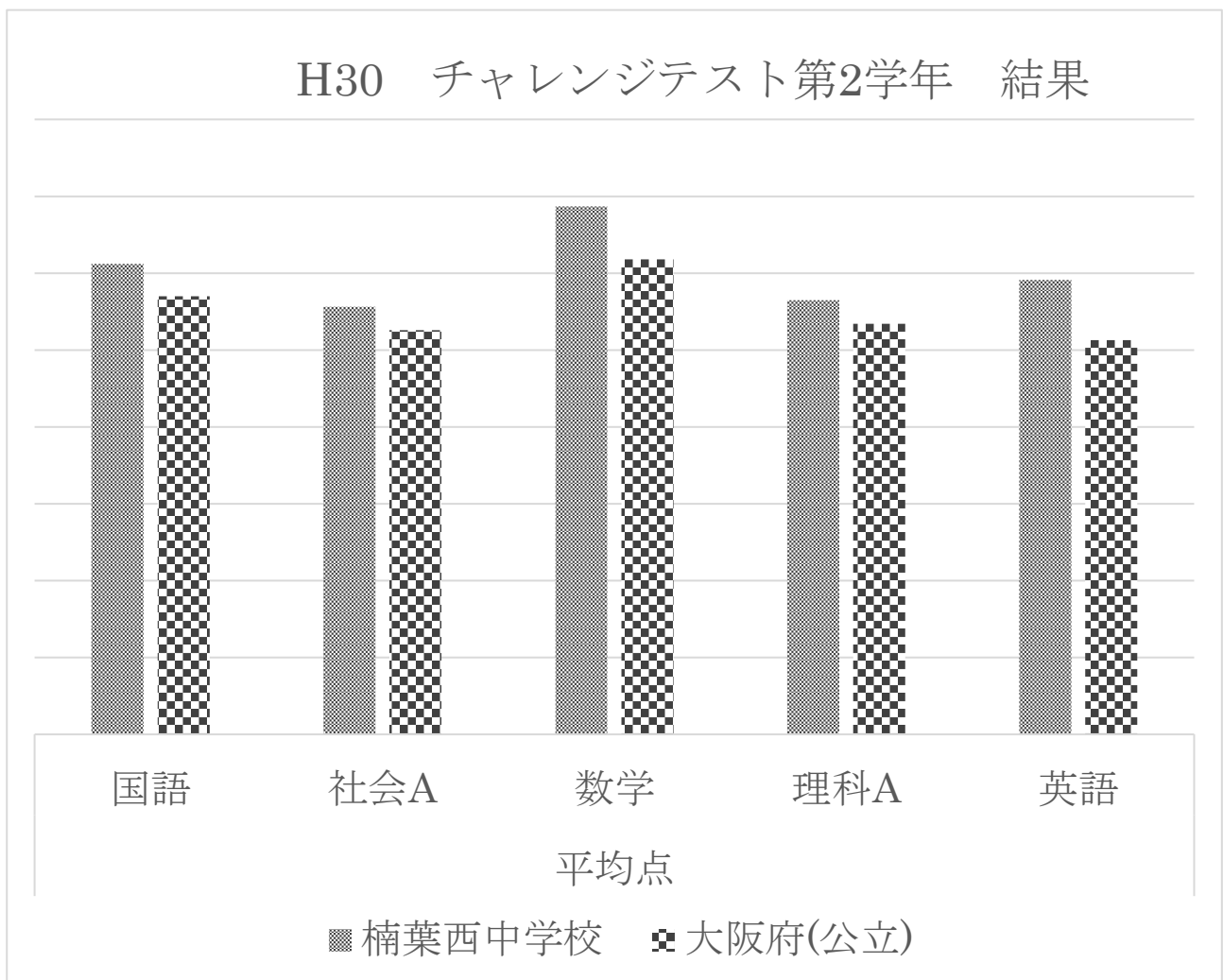
対府平均が前年度よりも実に大きな伸びを示している。特に表現、記述での正答率が府を大きく上回っているのは、日ごろから深い学びを意識した学習に取り組んできた成果だと考えられる。また定期テストに活用の問題を多く取り入れ、テストまでの授業でグループワークを通して多種多様な活用問題に取り組ませた結果が顕著に現れている。

【課題】

他の項目と比べて、「聞くこと」についての伸びがまだ十分ではないので、普段から英語を聞かせることに慣れさせる必要があると感じた。授業の中でも、英語での指示や、リスニング問題を解くなど、日ごろから英語に触れさせる機会をもう少し増やすようにしたい。

【対策】

定期テストまでの見通しを早めに立てて、定期テストの活用問題を早くから作る。授業の中では、生きた英語を使えるような課題作りを心がけ、読む、聞く、書く、話す、をまんべんなく取り入れ、展開し、定期テストの活用問題で到達度を測定する。【分析】



2年生（国語科）

【分析】

ほとんどの設問において大阪府平均を上回った。特に、記述式の問題は昨年より良い結果であった。府平均を下回った設問は「言語に関する知識・理解・技能」と「伝統的な言語文化」の観点に関するものであった。また、記述式の問題は昨年より府平均を上回っているが、読解に関しては昨年より下がり、府平均に近づいている。

【成果】

4人班を活用することで、教えあいができるので課題を理解する時間が早くなり、じっくり考えて書く時間をとることができる。例年課題であった「記述式」の問題で良い結果が出たのは、普段の授業でワークシートなどを使い、自分の意見や考えを書く時間を確保してきたからだと考えられる。

【課題】

昨年より読解力が落ちたのは、普段の授業で個人個人が文章と向き合って読んでいないということが考えられる。4人班を取り入れることで、教えあいが活発になると、どこを読めば答えにつながるのかを、読解力の高い生徒が他の生徒に教えてしまい、一人ひとりが深く読み込まずに答えに辿り着いてしまうことが原因ではないかと推察する。

「伝統的な言語文化」に関する問題については、古語の意味や歴史的仮名遣いなどの基礎的な知識に課題が見られた。

【対策】

4人班には利点もあるが、課題もある。4人班は個人の考えを深め合うときや伝え合うときに活用し、個人でじっくり考えて文章を読んだり、課題について考えたりする時間を確保する。そうすることで、個人の力を伸ばす指導をする。

2年生（社会科）

【分析】

学習した内容の時期によって正答率が大きく左右されている。先に学習した歴史的分野と比べると、地理的分野が良くできていた。また、短答式、選択式、記述式、どの分野においても万遍なく正答しており、特に弱いと見られる箇所は見当たらなかった。

【成果】

極端に得点の低かった生徒がおらず、無解答率も低かった。特に、記述式の問題においては、無解答が少なく、日頃から自ら考え記述することに慣れていることが良かった。また、資料活用の技能においても、日本の気候についてなど、グラフを読み取る問題は良くできていた。

【課題】

ある程度の難易度であれば短答式、記述式関係なくよくできているが、さらに問題がひねられると対応できなくなってしまい、一気に正答率が下がっていた。

【対策】

冬休みの宿題などを活用して、2年次の最初の方に学習した内容の定着をはかるとともに、定期テストなどで引き続き資料を活用する問題を出題するなどして、その力を養っていきたい。

2年生（数学科）

【分析】

ほとんどの設問において、大阪府の正答率を上回っているものの、「数と式」の文字式における除法の計算分野の無解答率が多く、「関数」の表やグラフからの情報の読み取りを正しく理解している生徒が少なかった。図形分野や記述等の説明する範囲については大幅に上回っており、日頃の学習における4人班活動の成果と取り組む姿勢が反映された結果と考えられる。

【成果】

「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の3観点はすべて大阪府を上回っている。そのうち「数学的な技能」については1年生時よりも上昇したのは、反復練習を繰り返し行ったためと考えられるが、まだまだ必要である。また、「記述式」の問題についても、苦手になっているが、常に考え、意見を言葉にする作業を行い、深い学びを意識した日々の指導の成果であると考えられる。

【課題】

「数と式」「図形」「関数」の3つの領域のうち、「数と式」「関数」に課題があり、「数と式」に最も課題がある。「計算力」に不安があるため、それにつながる「関数」への影響と考えられる。

【対策】

「計算力」が弱いので、十分な演習量を積んでいく必要がある。教科書とは別に問題集に取り組みさせているが、さらにプリントでの補充していく。また、宿題を毎時間提示することで家庭学習の習慣と復習の習慣を定着させ、充実させることが必要である。4人班活動での「学び合い」「教え合い」を利用して、学力の底上げを図る。【分析】

今回実施の3領域(化学・生物・地学)すべてにおいて、合計点では大阪府平均を上回る結果であった。無解答率も全体的には低かったが、解答形式や出題形式によっては解答をあきらめてしまう傾向が見られた。

2年生（理科）

【成果】

生物領域では、得点率が62.7%と府平均を大きく上回った。

化学反応式を完成させる問題は、定期テストでは苦手を感じている生徒が多かったものの、本テストにおいては解答できており、一定の理解が深まったと思われる。

【課題】

記述式問題が、正答率が低く、無解答の生徒(41.5%)も多く見られた。字数制限を伴う問題については、今後の対策が必要と考える。計算を含む問題については、無解答も含め正答でない生徒が多く見られた。直近で学習した地学領域の正答率が他に比べ低くなっていた。

【対策】

記述式問題に課題が見られたので、授業プリントなどを用いて書く力や要約する力を身につけていく。実験・観察では、器具や手順、操作上の注意など、しっかり理解をした上で取組み、結果考察などを話し合いの中からまとめられるような力をつける。

4人班を活用し、発展的な問題などにも取り組む。

2年生（英語科）

【分析】

ほとんどの設問において、大阪府の正答率を上回っているが、提示されている会話のその後を考えて答える問題が、リスニングと筆記の各1問ずつ府平均をわずかに下回っていた。その点は改善の余地があるが、記述問題に至っては、府平均を大きく顕著に上回っていたことは、普段から場面と再構築を意識した課題をグループワークで学習してきた生徒達の努力が現れた結果と考えられる。

【成果】

対府平均が前年度よりも実に大きな伸びを示している。特に表現、記述での正答率が府を大きく上回っているのは、日ごろから深い学びを意識した学習に取り組んできた成果だと考えられる。定期テストに活用の問題を多く取り入れ、テストまでに授業で丁寧にグループワークを通して多種多様な活用問題に取り組む努力した結果が顕著に現れている。

【課題】

学習した知識を再構築し、自分の考えやことばで表現する力がまだ十分ではないので、さまざまな場面を自分で想定し、自分のことばで表現できるようにさせたい。

【対策】

まず定期テストの活用問題を早めに作る。授業の中では場面と活用を意識した課題作りを心がけ、聞く、話す、作文する、を展開し、定期テストの活用問題で到達度を測定する。